

2013年10月11日

株式会社ビジネス・ブレイクスルー

「上司の本音」に関する意識調査

9割以上の上司が「部下に助けられていることがある」と回答 10月16日「ボスの日」に、感謝の気持ちで上司を支えよう！

「記念日の部下からの感謝の言葉」うれしい6割以上 最もうれしい言葉は「ありがとう」
「理想の部下」の条件に「リーダーシップ」が上位ランクイン
「最強の組織は全員がリーダーになれる組織である」(EQ能力開発コーチ深澤氏解説)

株式会社ビジネス・ブレイクスルー(所在地:東京都千代田区、代表取締役:大前研一、以下 BBT)が運営する「リーダーシップ・アクションプログラム」(大前研一監修)は、10月16日の「ボスの日」を目前に、上司の本音に関する意識調査を行いました。「ボスの日」は、上司と部下の関係性を円滑にするためにアメリカで制定された記念日で、上司にプレゼントを贈るなど感謝の気持ちを伝えるための日です

部下から見ると上司は少し距離のある存在にも感じられますが、今回の調査結果では、9割以上が「部下に助けられていると感じている」という、肩の力が抜けた、人間味を感じさせる上司像が浮かび上がりました。上司と部下のコミュニケーションを円滑にするためにアメリカで制定された「ボスの日」、本調査をきっかけにして、良好な関係づくりについて考えてみてはいかがでしょうか。

【トピックス】

◆上司の9割以上が「部下に助けられている」と回答。「上司としての点数」平均点は63.9点

38%の上司が「上司としての自分に自信がない」と回答。さらに97%が「部下に助けられていることがあると思う」と回答しており、部下と協力しながらチームを運営していきたいという上司の気持ちが垣間見られる結果となりました。

◆「記念日や誕生日などの部下からの感謝の言葉」65%が「うれしい」と回答

65%が「記念日や誕生日などの部下からの感謝の言葉」を「うれしい」と回答しています。また、上司が部下に言われてうれしい言葉ベスト3は「ありがとう」、「信頼しています」、「一緒に仕事できてよかった」となっています。

◆理想の部下像「自分の意見をもっていて、素直で前向きでリーダーシップのある人物」

また、理想の部下像には、「自分の意見をもっていて」などに並び、「リーダーシップがある」が上位に入るといった結果になりました。また、「周囲との関係構築ができる」や「適切な報告ができる」といった項目も上位に入っています。

【解説】深澤祐馬氏(株式会社SOOL 代表取締役/EQ能力開発コーチ/BBTリーダーシップ・アクションプログラム講師)

◆上司部下問わず、全員がリーダーにもフォロワーにもなれる組織が「最強の組織」となる

リーダーというと、チームを強く牽引するイメージを持つ人も多いと思いますが、最近では仲間と協業しながら組織を目指す方向に導くという新しいタイプのリーダー像が主流となりつつあります。上司も部下も、「全員がリーダーであり、全員フォロワーである」組織が最強の組織、とも言われており、上司も部下も柔軟なリーダーシップを獲得することが大切だと言えます。今回の調査では、肩の力の抜けた上司像が垣間見られる結果となっており、新しいリーダー像や新しい組織の在り方が示唆されていると言えるのではないのでしょうか。

〈深澤祐馬氏が4人の上司の本音に迫る！コンテンツ公開中〉

深澤祐馬氏が4人の上司を突撃！悩みを深掘りし、傾向を分析するコンテンツをリーダーシップ・アクションプログラムHPにて公開中！以下のサイトでご覧いただけます。

「BBT LAP」で検索 OR <http://www.ohmae.ac.jp/ex/leadership/special/130920/?topbnr>

【調査概要】

- ・調査期間:2013年9月17日～9月27日
- ・調査対象:部下を持つ男女164名(男性155名 女性9名)
- ・調査手法:インターネット調査

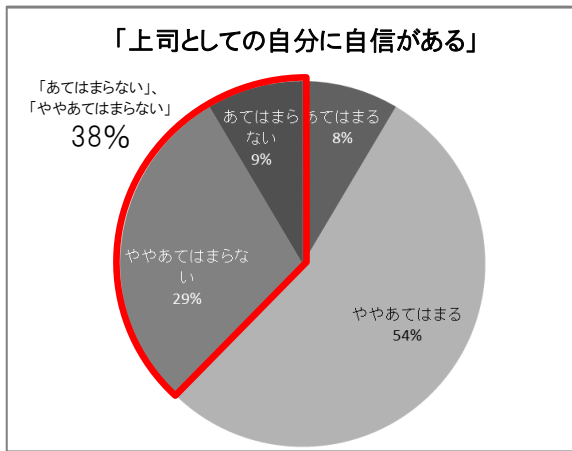
【アンケート結果詳細】

◆上司の9割以上が「部下に助けられている」と回答。「上司としての点数」平均点は63.9点

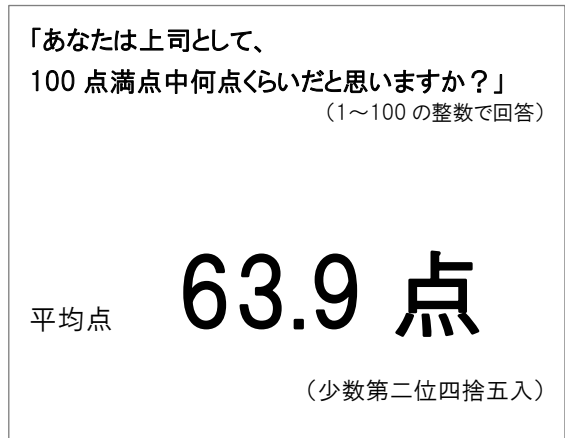
38%の上司が「上司としての自分に自信がない」と回答(図1)。上司としての点数を自己採点でつけてもらったところ、100点満点中、平均点が63.9点という結果になりました(表1)。上司として自信がない理由を探るため、「上司として自分に足りないと思う点」を尋ねたところ、「自分自信がぶれない力」、「チームをひっぱる力」が上位となっており(図2)、スキルよりも自分自身の本質について悩みを持っている様子がわかります。

さらに97%が「部下に助けられていることがあると思う」と回答しており(図3)、部下と協力しながらチームを運営していきたいという上司の気持ちが垣間見られる結果となりました。

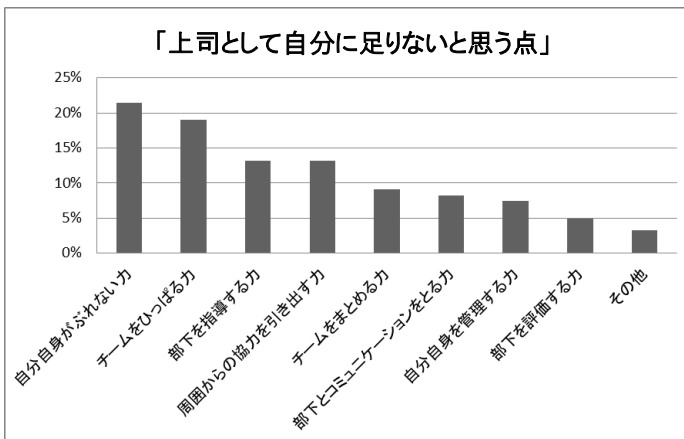
【図1】 n=164 (SA)



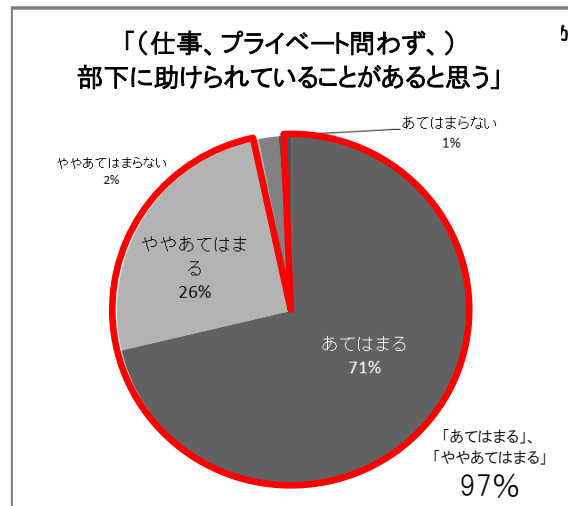
【表1】 n=164 (SA)



【図2】 n=52 (MA 有効回答数121)



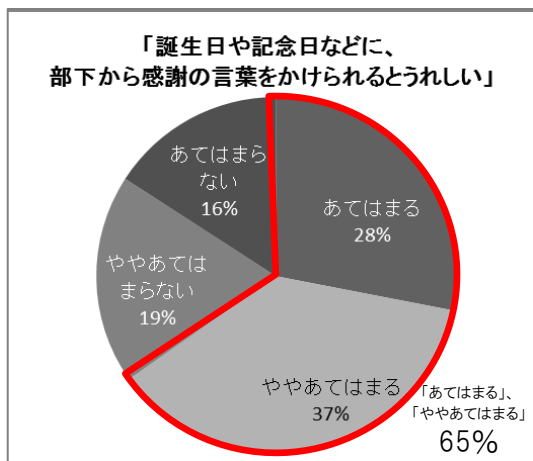
【図3】 n=164 (SA)



◆上司の6割以上は「誕生日や記念日などに部下から感謝の言葉をかけられるとうれしい」

65%が「記念日や誕生日などの部下からの感謝の言葉」を「うれしい」と感じています(図4)。また、上司が部下に言われてうれしい言葉には「ありがとう」、「信頼しています」、「一緒に仕事できてよかった」など感覚的に好意を示す言葉が上位にランクインしていることがわかりました(表2)。さらに、別の設問では、「ほめられるなら、スキルよりも人物像や人間性がいい」と8割が回答しており、上司にとって、スキルより人間力を重視している様子も明らかとなりました。

【図4】 n=164 (SA)



【表2】 n=139 (SA) *表中の数字は回答数

部下に言われてうれしい言葉 ベスト10

1	ありがとうございます	21
2	信頼しています・頼りにしています	20
3	あなたと一緒に仕事できてよかった	15
4	あなたを目標としています	8
5	アドバイスおかげでうまくいった	8
6	自分の成長を感じる	8
7	私に任せてください	7
8	会社・仕事が面白い	6
9	尊敬しています	5
10	助かりました	5

また、部下に言われてうれしい言葉上位10位の中には、「(部下が)自分の成長を感じる」、「会社・仕事が面白い」などの部下の仕事の充実がわかる表現や、「私に任せてください」などといった部下の成長が感じられる表現もランクインしており、部下の成長や喜びを自分の喜びとして感じている上司像も見えてきます(表2)。

◆理想の部下像「自分の意見をもっていて、素直で前向きでリーダーシップのある人物」

さらに理想の部下像を聞いてみると、「自分の意見を持っている」、「報告・相談が適切」などよく目にする回答に並んで「リーダーシップがある・後輩育成ができる」が5位にランクインしており、部下にもリーダーシップが求められていることがわかります(表3)。

「部下にされてうれしいこと」ベスト5には、「仕事で自分の考えを提案される」と並んで、「仕事で頼りにされる」、「仕事の悩みを相談される」なども上位ランクイン。自分なりの意見を持ち適切なリーダーシップを発揮できる一方で、上司とうまく協力して仕事を進めていける部下像が浮かび上がってきます(表4)。

【表3】 n=139(MA 有効回答数171) *表中の数字は回答数

理想の部下像 ベスト5

1	自分の意見を持っている	63
2	周囲との関係構築ができる	17
3	報告・相談が適切	14
4	素直	11
5	リーダーシップがある・後輩育成ができる	10
5	前向き・チャレンジ精神	10

【表4】 n=139(SA) *表中の数字は回答数

部下にされてうれしいこと ベスト5

1	仕事で自分の考えを提案される	100
2	仕事で頼りにされる	91
3	仕事の悩みを相談される	79
4	感謝の言葉をかけられる	60
5	仕事以外の悩みを相談される	50

【解説】

上司部下問わず、全員がリーダーにもフォロワーにもなれる組織が「最強の組織」となる

深澤祐馬氏(株式会社 SOOL 代表取締役/EQ 能力開発コーチ/BBT リーダーシップ・アクションプログラム講師)

リーダーというと、チームを強く牽引するイメージを持つ人も多いと思いますが、最近では仲間と協業しながら組織を目指す方向に導くという新しいタイプのリーダー像が主流となりつつあります。上司も部下も、「全員がリーダーであり、全員フォロワーである」組織が最強の組織、とも言われており、上司も部下も、柔軟なリーダーシップを獲得することが大切だと言えます。今回の調査では、肩の力の抜けた上司像が垣間見られる結果となっており、新しいリーダー像や新しい組織の在り方が示唆されていると読み取ることができます。

◆上司・リーダーには隙があった方が組織は強くなる。自分なりのリーダーシップを確立することが有効

組織のリーダーが必ずしも完璧である必要はありません。むしろリーダーには適度に隙があったほうが、部下・メンバーの自発性・自主性が育ち、リーダーを支えたいという意識が生まれます。そんな関係を醸成できれば、組織はおのずと活性化し、困難な仕事や問題解決にもより大きな成果を生み出すことができるはずですが、隙のあるリーダーというと、違和感を抱く方が多いかもしれませんが、隙のない出来過ぎた上司は、部下にとっては煙たく、プレッシャーを与える存在となりがちです。また、部下やメンバーに隙を見せまいとすれば常に緊張が解けず、ストレスが溜まる一方です。今回の調査では、肩の力の抜けたリーダー像が見てとれますが、本当の意味で適度に隙があり、ときにはフォロワーにもなれるリーダーになるためには、自分なりのリーダーシップを確立することが有効です。

◆部下にもリーダーシップが必要な時代。実践にはぶれることのない”軸”が必要

上司がフォロワーになれることに加え、部下がリーダーになれることが最強の組織の条件と言えます。つまり、部下にもリーダーシップが必要なのです。真の意味でのリーダーシップとは、自分の軸や判断基準を明確に持つこととほぼ同義です。上司も部下もひとりひとりが自分の軸をきちんと持つことで、関係が良好なものになるとともに、組織としての力も強くなるのです。

リーダーシップには、特定のかたちや方法論はありません。その人の個性や資質に応じてかたちを変え、組織やコミュニティに影響を与えていきます。つまり、リーダーシップとは“自分らしさ”の表れであり、その実践にはぶれることのない“軸”が重要だということです。リーダーに正解はありません。「Be=自分はどうあるべきか」というリーダーシップの本質を理解すれば、どんな場所でもどんな立場でも、自分ならではのリーダーシップを発揮できるのです。

〈深澤祐馬氏が4人の上司の本音に迫る！コンテンツ公開中〉

深澤祐馬氏が4人の上司を突撃！悩みを深掘りし、傾向を分析するコンテンツをリーダーシップ・アクションプログラム HP にて公開中！以下のサイトでご覧いただけます。

「BBT LAP」で検索 OR <http://www.ohmae.ac.jp/ex/leadership/special/130920/?topbnr>

【BBT について】

ビジネスパーソンが常に最先端のビジネスの知見を得られる“ビジネスに関する知的プラットフォーム「ビジネスパーソンの知的給油所」”になることを目指し、世界に通用するビジネスパーソンの育成を目的として 1998 年に設立。マネジメント教育事業を主軸とし、世界的経営コンサルタントである大前研一の知識や経験に基づいた最先端のコンテンツを主にオンデマンドで提供。輩出人数はのべ約 5 万人。 <http://www.bbt757.com/>

【リーダーシップ・アクションプログラムについて】

「真のリーダーシップ」を身に付けることを目的に、「スキル」、「マインド」双方をバランスよくじっくりとつくりあげる大前研一監修のプログラム。ウエストポイント(米国陸軍士官学校)のプログラムをベースとして開発された本プログラムは、リーダーシップ獲得に不可欠な 3 つの要素、BE=「自分はどうあるべきか」、KNOW=「何を知っているか」、DO=「何をすべきか」を全て揃えており、じっくり自分と向き合うことを通して、確固たる自分の軸の獲得を目指しています。

¹ マッカーサー、アイゼンハワーなどが卒業生として名を連ね、コカ・コーラやGE、ウォルマート、P&Gといった世界の超優良企業の経営幹部を多数輩出している全米ランキングで常に TOP10 に入る 4 年生大学。

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社ビジネス・ブレイクスルー PR 担当 袴田(はかまだ) TEL:03-5860-5548 FAX: 03-3265-1381